令和２年度（２０２０年度）
熊本市子どもの未来応援基金助成団体
活動報告書

熊本市　子ども政策課

目　次

１．熊本市子どもの未来応援基金について
（１）助成概要 ・・１
（２）基金への寄附について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
（３）ご支援頂いた皆様 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

２．活動報告
（１）スタートアップ枠
西里子育てサークル ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
ＮＰＯ法人ポピンズくまもと ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
ここサポ ・・・７
熊本食育の会 ・・９

（２）企画枠
特定非営利活動法人教育支援プロジェクト・マスターズ熊本 ・・・１１
ＮＰＯ法人コロボックル・プロジェクト ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
子育てネットワーク「ともあい」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
ほっこり子育てひろば ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７
白川小学校親児の会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９
学校法人熊本 YMCA 学園 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１
子育てネットワーク「縁側 moyai」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３
ＮＰＯ法人子育て支援ワーカーズぺぺぺぺらん ・・・・・・・・・・・・・・・２５
育児サークル　HUG ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７

（３）子ども食堂枠
尾ノ上コミュニティ食堂「陽だまりの樹」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９
ほがらか食堂 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１
楡木子ども地域食堂なごみ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３
西原地域食堂「よってっ亭」（にしばる地域食堂実行委員会） ・・・・・３５
Yell つながるカフェ（Yell チャイルドマインダー熊本の会） ・・・・・３７
食育体験！たつだ・こどもカフェ（実行委員会） ・・・・・・・・・・・・・・・３９
縁側サロン竹ちゃんち ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４１

みんなの食堂 ・・４３
一般社団法人こどもキッチンブルービー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４５
Ouchi 食堂・・・４７
熊本学習支援センター　大江子ども食堂 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４９
NPO 法人熊本 YWCA ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５１
NPO 法人くまもと相談所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５３
子ども食堂ひまわり ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５５
熊本市西区中島校区こども食堂まんまる ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５７
NPO 法人逢桜の里・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５９
不登校・ひきこもり支援プロジェクトダッシュスクール富合 ・・・６１

１．熊本市子どもの未来応援基金について

本市では、「熊本市子どもの未来応援基金」を活用して、子育て支援活動をする個人や団体を支援しています。熊本市子どもの未来応援基金は、平成 6 年に熊本市エンゼル基金として、次の世代を担う子どもたちが、いきいきと、たくましく、健やかに育つ環境づくりに資することを目的に創設されました。

平成 31 年(2019 年)4 月から、子どもたちの未来の応援につながるものとして、「熊本市エンゼル基金」を「熊本市子どもの未来応援基金」へ名称を変更するとともに、新たに、子ども食堂への支援を行うなど、助成対象を拡充しました。

（１）助成概要

○スタートアップ枠・企画枠（広く全般に子育てや児童を支援する活動）

対象事業	１.地域における子育て支援活動 ２.児童の健全育成を目的とする活動 ３.障がいを持つ児童を支援する活動 ４.ひとり親家庭及び両親のいない児童を支援する活動 ５.父親の子育て及び育児参加を推進する活動
助成要件	個人または団体の居所・本拠地が熊本市内であること
対象経費	報償費、需用費（食料費は除く）、燃料光熱費、役務費、使用料及び賃借料、備品購入費（上限総額２万円）
助成額	・**スタートアップ枠**　：設立後３年目までの団体・個人 初年度５万円、次年度５万円 ・**企画枠**：特に効果的かつ先進的な取り組みで、他の模範となるような活動を行う団体 単年度上限１０万円

○子ども食堂枠

対象事業	１.食事の提供を通し、全ての子どもが気軽に立ち寄れる子どもの居場所づくりを行う活動（**開設・運営補助枠**） ２.１の子どもの居場所づくりに加え、学習等様々な学びの支援を行う活動（**拡充枠**）
助成要件	１.熊本市内で開設しているもの又は開設するもの ２.開催時、常駐できる責任者を配置し、国等の通知に基づき安全面・衛生面について適切な配慮を行っていること ３.責任者とは別に、活動の補助等ができるスタッフを１名以上配置すること ４.３人以上で構成されていること ５.継続した運営をする意思及び能力を有すると認められること ６.子どもが広く参加できるように広報し、団体関係者等特定の者しか参加できない運営を行わないこと ７.定款・会則等を備えていること
対象経費	報償費、需用費（**食料費含む**）、燃料光熱費、役務費、使用料及び賃借料、備品購入費（運営補助枠は上限総額 2 万）

助成額	・**運営補助枠**　：年間の実施回数に応じて上限額を設定 年　４～１２回　　５万円 年１３～１８回　　７万円 年１９～２４回　１０万円 年２５回以上　　１５万円 ・**開設枠**：上限５万円（申請年度内に開始することが確定した団体に限る） ※１団体１回限り申請可 ※運営補助枠と併用可 ・**拡充枠**：上限５万円 ※１団体１回限り申請可 ※運営補助枠と併用可

（２）基金への寄附について

次の①または②のどちらかの方法により、随時、寄附を募集しています。

①ふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」での申し込み
https://www.furusato-tax.jp/japan/prefecture/43100

②子ども政策課へ寄附採納願いを提出
寄附採納願いを子ども政策課へご提出ください。納付書を送付いたしますので、金融機関（ゆうちょ銀行を除く）にてお振込みをお願いいたします。

（３）ご支援頂いた皆様

〇令和２年度（令和３年１月末時点）
計４６４件、計１２，１２６千円
大同リース株式会社様、有限会社福徳開発様、株式会社七草堂様、熊本青果物出荷組合様、個人

〇令和元年度
計４６件、計４，００８千円
熊本江南ロータリークラブ様、有限会社福徳開発様、株式会社七草堂様、山崎菅原神社様、個人

〇平成３０年度
計１５件、計５０３千円
株式会社北電子様、児童福祉施設ボランティア連絡会様、個人

これ以前にも多くの方からご支援いただき、こまで計６３，５０９千円の寄附を頂いております。

西里子育てサークル

活動を始めるきっかけ/活動概要

　自分の子どもを小学校に通学させてきた中で、貧困や両親の共働き、離婚等による片親での養育などの理由により、周囲とのかかわりが十分持てず、孤立した子育てを送らざるを得ない家庭や孤独に暮らしている子供たちが自分の家庭も含め、とても多いことに驚いたのがきっかけです。塾などに通うことも難しい家庭が多いため必然的に学校の授業についていけず、不登校など多くの問題を引き起こしていました。

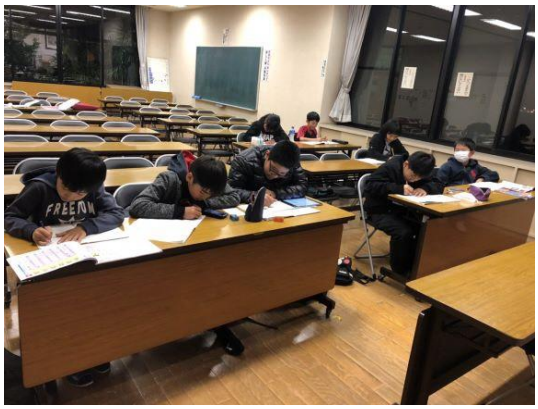
　この状況をどうにかできないかと多方面に相談し、子供たちや母親のよりどころになる居場所づくりや一緒に集まって宿題からでもいいので共に学習できる場所を作りたいと思って取り組みを始めました。

重点的に取り組んだこと/成果

　今年度は新型コロナウィルスの影響もあり、当初は母親参加型のイベントなども企画していましたが、感染状況の状況を見ながら子どもたち向けの学習会の開催のみを行いました。専門の講師ではないため難しいことは教えられませんが、学校の宿題や基礎的な学習をみんなで行い、少しでもそれぞれの学校の他の子たちとの差が開かないよう頑張りました。

　今年度は７回の学習会を開催することができました。

【活動写真】



課題/解決に向けての取り組み

　数年前よりこの学習会を行っていますが、現在の参加者以外にもこの学習会を必要とされている家庭への周知がうまくいっていないのが現状です。口コミのみでの参加者しかいないためうまく周知が回っていかないことが原因として考えらます。

次年度以降はこの課題を解消するため、地域の社会福祉協議会や児童相談所、老人会等ともより連携してより多くの子どもたちが参加できるように取り組んでいきたいと思います。

今後の展開

　数年間の取り組みの中で、塾に行けない子供たちの学習面のサポートが、家庭でも地域でも大きなニーズとされていることが分かりました。
今後はこの学習面に重点を置き、回数や参加者を増やしていくことで、より広範囲の子どもたちをサポートしていきたいと思います。
この活動が学校や家庭では見切れない部分を担っていくひとつの社会資源となっていけば幸いです。

連携団体

西里公民館
西里小学校
北部中学校
地域のボランティア団体
自治会
民生委員
児童委員

問い合わせ

―	070-4770-0630 （担当者　志田）	―

NPO 法人ポピンズくまもと-only connect-

活動を始めるきっかけ/活動概要

休校中のお弁当配達☆

◇活動期間：4/27 から 5/23 までの計 7 回
◇配達個数：約 12 食×7＝約 84 食
◇配達地域：池上団地、高橋団地

2020 年 4 月、コロナ第一波による休校中。「4 月になれば、落ち着くかな…」と思っていた 3 月に比べ、4 月に入ると、「いつまでこの状態が続くのか？」という不安が強まってきた。親の仕事も自宅待機が長期化し、お互いのストレス度合いが高まる。
「金銭的にも精神的にも追い込まれている。栄養状態を考える余裕はなく、菓子パンばかりを食べる日々が続いている…」との母親からの SOS を受け、活動スタート！
その中で見えてきたものは、時間が経過するにつれ変化する家庭の様子だった。

◎母親の様子
・極端に太る（過食）
・清潔状態が保てない（身体も環境も）
・極端にコロナに対して警戒度が高い
・将来への不安　など

◎子どもの様子
・友達と連絡とることもせず、ゲームにのめりこむ
・清潔が保てない
・兄弟喧嘩が絶えない
・食が細くなる　　など

重点的に取り組んだこと/成果

◇お弁当配達の際に、他の子どもたちの様子をボランティアが伝えていった。
↓
・子どもたちがお互いの様子を少し意識するようになった。
・連絡を取り合うことで様子が分かり始め、子どもたちが再度、繋がり始める。
・「お弁当配りますよ～」のアナウンスを機に、保護者も再度繋がりはじめた。
・お互いを心配し、声掛けするようになった。
・人気のない場所、時間を親が選び、外で運動する時間を作るようになった。
→ゲームを止める時間帯ができた。
・運動の時間に合わせて起きる（朝も夕方も）など、生活リズムが戻り始めた。
・保護者も連絡網で一斉に繋がり、身体を動かすことの大事さを一緒に共有できた。
・身体を動かすと心も健康になっていく様子を実感。
・「子どもたちの笑顔が見られるようになった」、「やる気が出てきた」との保護者からの声。
◇子どものストレスが軽減すると、親のストレスも軽減した。
家庭だけではこの変化は期待できなかったと思われる。

お弁当配達責任者：森髙麻里（NPO 法人ポピンズくまもと 理事）

課題/解決に向けての取り組み

　シングル家庭は少しの環境の変化にも経済的、生活に打撃を受ける。今回、新型コロナの感染拡大による打撃は大きい。深刻なダメージを受けている。家庭がダメージを受けると、子どもたちの日常生活、さらには心身にまで影響が及ぶ。それを家庭だけの力で解決することは困難である。

　よって、今後も、より多くのシングル家庭(課題はシングル家庭だけの問題ではないので、その他支援の必要だと思われる家庭にも)事あるごとに声を掛け、なんでも相談できる環境を整えていく必要がある。

今後の展開

そのためには、みんなが気軽に集える場所を準備し、子ども食堂やイベントを企画するなどし、顔の見える相談窓口として、活動を行なっていきたい。

連携団体

◇イナロ食堂（熊本市中央区手取本町 2-11）

・お弁当の調理を依頼。

当初、ご飯とおかずのセットで提供していたが、現場のニーズをみて、おかずのみに変更。

※写真参照

問い合わせ

pk.only.connect@gmail.com	070-5274-0762 （担当者：藤山）	NPO 法人ポピンズくまもと-only.connect-Facebook https://www.facebook.com/pk.only.connect

ここサポ

活動を始めるきっかけ/活動概要

本団体は、市内小学校で児童と保護者等の相談を受ける 熊本市教育委員会嘱託「心のサポート相談員」を中心に結成。相談員が年々勤務時間数・配置校数ともに減少傾向にあることから、地域でも子どもや親が安心して過ごせる居場所を作り、グチや困りごとなどを気軽に話したり多世代が交流できる場を設けることで、親子の孤立や不登校・いじめなどが生じる事態を未然に防ぎ、温かい子育て環境を作ることを目指して「みんなの居場所 うちらんち よかよか」を始めた。

毎月第 2 土曜(上江津公民館)と第 4 日曜(泉ヶ丘校区公民館)の月 2 回(午後 1 時～5 時)、自由な遊び場、学習支援、相談受付、性教育講座などを行った。

〈学習支援〉

〈性教育〉

〈カフェで雑談〉

重点的に取り組んだこと/成果

大人が過ごし方を先導したり企画しすぎないよう努め、子どもの存在そのものや思いを受容し、一緒に遊んだり同じ時間を過ごしながら、誰でも安心できる居場所とすることを意識した。多忙で平日の学校では話す機会が持てなかった母子や小学校教員が訪れることもあり、地域での居場所の必要性を改めて認識することとなった。

高校生が継続してボランティアとして参加してくれ、未就学児や小学生と遊びを通した関わりが多く見られた。異年齢の子ども間の遊びや関わりが少なくなっている中、貴重な場になりつつあると感じている。

性教育講師資格を取得したスタッフによる性教育講座の会にはたくさんの親子の参加があり、性について知る機会の少なさと性教育への要望の強さを痛感し、今後継続して展開していく意欲が高まった。

課題/解決に向けての取り組み

新型コロナウイルスの影響で活動開始が 4 月から 6 月にずれ込み、その後も公民館が閉鎖され急遽場所を変えるなどコロナに翻弄された 1 年だった。小中学校でのチラシ配布もできなくなり、子どもに届く広報が思うようにできず、利用者も固定化されつつある。

子どもと多世代の交流を持ちたかったが、地域の高齢者に参加を呼び掛けることが難しくほとんど機会がなかった。塾や部活で忙しい中高生の参加が促しにくいのも課題である。

スタッフが少なく、それぞれに仕事や家庭もありマンパワーが不足しているため、今後はスタッフとボランティアの確保にも力を入れていきたい。

今後の展開

コロナ禍で子どもの遊び場や相談スペースも閉鎖されたり利用しにくくなっている現状なので、感染対策を十分に講じながら、親子が安心して利用でき、直接話せる・遊べる場所として少なくとも月 2 回の開催を維持し、地域で認知していただけるよう努力を重ねていきたい。

SNS を利用して中高生とのつながりも作りながら、空きスペース等の定点を確保して、放課後等に気軽に立ち寄れ、自習・学習スペースとしても使えるような居場所を設けることも目標にしている。

性教育を定期的に実施することで子育ての中での性教育に対する不安や戸惑いを軽減し、子も親も性と命について知り、自己を肯定し、自分を大切にしながら、主体的に生き方を選択していけるよう応援していきたい。

連携団体

泉ヶ丘・若葉校区子育て支援ネットワーク、逢桜の里、志成館高等学院、せいしとらんし熊本、発達障がい者・家族の会 プリズム、TSUDOU・NET(子どもから地域へ拡がれネットワーク)

問い合わせ

cocosapo2020@gmail.com	090-4158-6513 （担当者　下田）	https://www.facebook.com/cocosapo2020 みんなの居場所　うちらんち よかよか　Facebook

熊本食育の会

活動を始めるきっかけ/活動概要

　スーパーに行けば、お菓子、お惣菜、加工食品、様々なものがあふれるほど並んでいます。その中で、食べたいものを好きなだけ食べる人、健康志向でいつも食には気をつけている人、いろんな人がいると思われます。

　そのような中で、正しい情報を知って、栄養バランスの取れた正しい食生活を送ることができれば、子どもも大人も健康に過ごすことができると考えます。

　特に子供の食生活は、子どもの脳発達、心身の健康、さらに大人になった時の生活習慣病にも影響を与えるものですから、とても重要だと考えます。

　安心、安全、栄養バランスの取れた食生活を送ることの提案を、
「はなまるクッキング」を通してできればと熊本食育の会のメンバーの想いで活動を始めました。

重点的に取り組んだこと/成果

　2月から調理室が使えない状況で、子育て中の方に継続して食育活動をするために、4月から5月まで3回の「子育て応援プロジェクト」を実施しました。子供に食べさせたい手作りおやつ、手作りの焼き肉のたれなどを会員で作りお渡ししました。同時に、お渡しする内容に合わせて、様々なものに使われている添加物のことなど詳しく書いた資料、レシピも一緒にお渡ししました。身近な加工食品、調味料を見直すきっかけにしていただくことができたと思います。

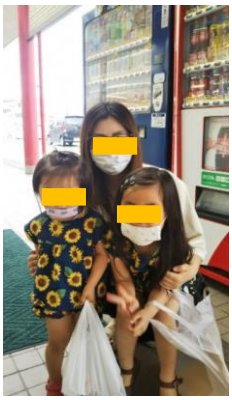
8月には、子供クッキングを計画していましたが今回は、ZOOMでのリモート開催をしました。阿部司先生のジュース作り実験キットを使い、2回実施しました。子供さんも真剣に取り組んでもらえたと思います。

　ジュースやゼリーを食べる夏に、子どもに分かる添加物の話をリモートでもできたことはとてもよかったことでした。その後、保護者にお尋ねしたとき、子供さんがジュースの添加物の話を家族にもしていたということを聞きました。

　7月、10月には手作り味噌作りを実施。延べ7名の参加。（熊本市池田味噌醸造にて）

　調理実習は、10 月から 12 月の 3 回。延べ 11 名の参加。

子育て応援プロジェクト



集合しないように
個別にお渡しする

8 月 ZOOM でのジュース作り実験開催

調理実習

課題/解決に向けての取り組み

子育て応援プロジェクトには、十数名の方が毎回参加して頂きましたが、コミュニティセンター開館後の「はなまるクッキング」への参加はなかなか増えません。

コロナ禍でかなり慎重になり、継続して参加していた方が見合わせたりされています。参加される方に安心して参加して頂けるように、十分な感染防止対策をしています。このことをお知らせし、参加して頂けるようにしたいと思います。

ZOOM での開催に向けて、リモート開催の計画をこれまで参加された方にお知らせしていきたいと思います。

今後の展開

2021 年もコミュニティセンターの利用は制限されると考えられますので、子育て応援プロジェクトを実施したいと思います。

また、ZOOMでのリモート食育活動をやっていきたいと考えています。子どもに食べさせたい栄養たっぷりおやつ作りや、簡単なお惣菜作りができたらと思います。

連携団体

NPO 法人日本食育協会、NPO 法人福島県食育協会

問い合わせ

kyky19562015hhyik@yahoo.co.jp	090-5742-1520 （代表　横山久美子）	—

特定非営利活動法人

教育支援プロジェクト・ マスターズ熊本

活動を始めるきっかけ/活動概要

本 NPO は、子どもを取り巻く環境が複雑化し、教師や保護者のみでの取り組みだけでは子どもの真の健全育成が不十分であり、学校教育外での子育ての支援も必要であると考え、長年活動を行ってきた。

2020 年４月、「改正児童虐待防止法」の施行により、親権者などによる体罰の禁止が明確にされた。家庭内で「しつけ」を名目に行われる体罰が、虐待につながっている例が多いからである。子育ての経験が乏しい親が、子どもの「しつけ」「体罰」「虐待」の線引きで悩み、精神的に追い込まれることも多い。

そのような若い親に対して、体罰や暴言に頼らない子育てができるように、親自身の意識を変えていくことを主な目的として講座を行うことにした。

重点的に取り組んだこと/成果

今年度は、新型コロナウィルス感染症の拡大防止の必要性が生じてきたため、当初計画していた内容や回数を見直し、感染症拡大防止のため、オンライン参加による講座に切り替えた。オンライン参加ができない参加者に対しては、人数を５名以下で会場参加とした。

参加者をオンライン 2 グループと会場 1 グループの 3 つのグループに分け、それぞれファシリテーターのもとで参加者の意見や思いを引き出していくことにした。

子どもの発達プロセスにおける行動や感情を教育の専門家から学び、子育て中の保護者とオンラインでつながって互いの感情コントロール方法を知り、分かち合い「良好な親子関係」のきっかけとなるようなプログラムで行うことにした。

講座名「ペアレント　ラーニング」
１回目　１２月１２日（土）　秋津公民館及びＺＯＯＭによるオンライン　参加者　９名
「今、こどもたちに何が起きているの？今、気になっていることを聞いてみよう！」
講師　　熊本市教育相談室　学校教育コンシェルジュ　古閑　順子氏

オンラインの参加者
6名

会場の参加者
3名

講師　古閑先生

進行役による
グループトーク

《 参加者からの感想や意見 》

「知らない人と話ができて良かった」「これからスクールカウンセラーに聞いてみたいと思った」「本当に子育てに悩んでいる人が学校へ来ない、悩みを話せるようにするにはどうしたらいいか？」「講師の話で子どもとかかわるには正面でなく真横にならぶ、一緒に学ぶという姿勢が大切だということが心に響いた」「未就学の子育て中で子どもの癇癪にどう対応するか悩んでいる」

以上の質問、相談事項が活発にあがった。また、講師の話から専門的な内容や情報の提供により、子育の悩みを打ち明け、共有することで保護者の見方の転換、リフレッシュの場となった。

課題/解決に向けての取り組み

　オンラインでの講座に不慣れであり、ワークショップの予定時間が短くなってしまったので、十分に会話をし、振り返りやより掘り下げて考えるような時間を次の回では持てるようにしたい。そのためにもオンライン講座の手順をマニアル化して進行していきたい。
　第１回目の講座では、各参加者からそれぞれ日頃の悩みが出され、それに対して、講師から適切なアドバイスをしてもらうことができた。
　身近な相談相手がいることで、深刻な状況になることを防ぐことができそうだと実感した。
　本講座を通して、人とのつながりができ、相談窓口を知ってもらうことができれば、講座が更に有意義なものになると考えている。

今後の展開（予定）

2 回目　1 月 23 日（土）　ＺＯＯＭによるオンライン
「感情のコントロールで笑顔の子育て・アンガーマネージメントを学ぶ」
　講師　㈱カウンセリングルームら・らぽーと代表　堀川　香代氏

3 回目　２月１３日（土）　西部公民館及びＺＯＯＭによるオンライン
「対等な関係性を育むアサーティブ・コミュニケーション」
　講師　㈱ハート・ラボ・ジャパン代表　知識　茂雄氏

　今後２回も講師によりテーマにそった内容で見識を深め、ワークショップで保護者同士の交流により互いの深化充実により日々の子育てに役立たせてほしい。

連携団体

　NPO 法人 ガット、NPO 法人 傾聴ネット キーステーション、里親の会、植木自然塾
　NPO 法人 コロボックル･プロジェクト　等

問い合わせ

mastarskuma@gmail.com	090-1874-1591 （担当者　緒方　清美）	―

ＮＰＯ法人コロボックル・プロジェクト

活動を始めるきっかけ/活動概要

・自然や動物が大好きで、個性豊かで（発達障がい等）やんちゃな子どもたちと、南阿蘇の里やまで川遊びや自然観察、訓練された犬たちと触れ合うことで、生きもの共生（社会）をめざす（やんちゃキャンプ）

・秋（10／25、子ども６人・大人５人、スタッフ 14 人、訓練犬４頭）・冬（12／20、子ども５人・大人４人、スタッフ 11 人、訓練犬４頭）、カイハラ動物病院保養所周辺で実施。

重点的に取り組んだこと/成果

①　安全・安心に活動できるプログラムづくり

・新型コロナウイルス感染防止：主催者対応と参加者への協力依頼の共通理解のもと宿泊なしで、当日の活動最初に検温及び健康状態を確認／マスク着用やソーシャルディスタンスなど徹底して実施

・新規参加者：ＬＩＮＥやマスコミ広報実施により、秋・冬ともに新規３家族／犬とのふれあい活動では初心者対応（基本的な説明も）

② 安全・安心に活動できる支援体制づくり

・感染防止のため参加者制限／家族・スタッフ数の精選、自然体験指導スタッフの増員

課題/解決に向けての取り組み

・四季折々の実施／（夏は感染拡大防止のため中止）秋・冬実施、活動内容の充実（秋・アスペクタでの草スキー、冬・自然素材でのクリスマスリースづくり。

・「生きもの共生教育」の共通理解：（アンケートによる）相互理解／
（家族）大きなクリスマスリースが出来ました。家の玄関に飾ってみると、かなり存在感がありました。良い記念品ができました。寒かったのですが、子供は寒くても外で遊ぶのが好きなんだなと思いました。外で遊ぶ機会が減っているので、とても良いイベントでした。
（動物スタッフ）毎回子供たちのやさしさにふれ合って楽しい思いをしています。コロナ禍でいつもの活動が休止となり淋しい思いをしていましたが、やんちゃキャンプの活動で私自身も感謝しています。
（動物スタッフ）犬に集中したり物づくりに集中したり、自然は子どもにも大人にも何かをなげかけてくれる存在だと思いました。

今後の展開

・ｗｉｔｈコロの時代の在り方
・四季折々の実施：夏は自然観察・体験活動中心、秋冬は犬とのふれあい活動も。

連携団体

・動物介在教育チームカイハラ
・相互支援の会スマイルハート

問い合わせ

Kaibara29@yahoo.co.jp	090-2962-8668 （甲斐原）	（12）NPO 法人コロボックル・プロジェクト ｜ Facebook

子育てネットワーク「ともあい」

活動を始めるきっかけ/活動概要

託麻北校区では、子育て世帯の流入が増加し、地域のことを知りたいと言う声や、子どもに関する活動を行っている方々を知りたいと言う声を聴くようになりました。そこで、ネットワークの事業を通し、親同士、世代間、地域交流の機会を増やし、顔の見える関係づくりを行うことで、地域で子どもたちを見守る環境を作りたい。また、子どもたちの健やかな成長支援を行いたいという思いから活動を始めました。

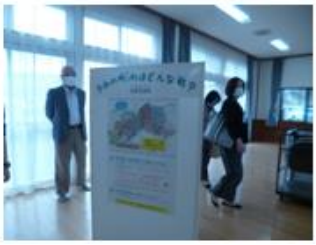
世代間交流事業　「ものづくりワークショップ」

1. パネル作成

㋐　子育てネットワーク役員紹介

㋑　民生委員・児童委員、主任児童委員の仕事の紹介

㋒　校区の紹介



2. ワークショップ

㋐　円形木琴作り

㋑　クリスマスリース作り

㋒　サシェ作り

㋓　牛乳パックで遊ぼう

㋔　チョークで落書き

重点的に取り組んだこと/成果

1. 「世代間交流事業」として託麻北校区（地域）の活性化を図ること。
2. 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行い、校区の皆様の安全・安心を祈念し、今回は 50 人程度とする。
3. 計画の段階で、イベントの講師やワークショップの講師等、地域に埋もれている優れた人材を発掘し、積極的に協力を呼びかける。
4. 今後の活動の一員として参加していただけるよう、組織化を図っていく。

課題/解決に向けての取り組み

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、多くの参加募集を呼びかけることが困難な状況での開催になりました。7 月の段階で収束の様子が見られ、8 月と 11 月の 2 回に分けて実施できる方法を協議いたしましたが、感染者の増加で 8 月を中止したので参加人数が少なくなってしまいました。

また、コミュニティセンター室内の収容人数を、スタッフや参加者合計で 50 人と制限した為、広報・周知方法として当初考えていた、チラシの配布・回覧板・SNS を十分に活用できませんでした。

限られた中での広報でしたが、募集締め切り前には定員に達しました。今までの活動が浸透してきているのを実感することができました。新型コロナウイルス感染症が、収束していけば問題ないと考えられます。

今後の展開

地域における多様な関係者の支援を得ることで、子どもたちが安全安心で明るく住みやすい地域になるよう子育てを支える環境を作る。

運営委員に子育て世代に入ってもらい意見を聞きながら、ニーズに合った事業計画を立てていく。

連携団体

社会福祉協議会、民生児童委員、主任児童委員、東区保健子ども課、託麻北自治会
供合地域農地・水環境保全組織、地域コミュニティセンター、青少年育成協議会
木の葉子ども園、供合保育園、託麻北小学校、PTA,老人会、ＪＡ熊本市女性部他

問い合わせ

		or
ym082100@yahoo.co.jp	096-380-8740 （担当者　三原　栄智子）	—

ほっこり子育てひろば

活動を始めるきっかけ/活動概要

「ほっこり子育てひろば」は、平成２９年２月から、飽田地区また近隣住民を対象に活動を始めました。飽田地区は、子育て世代の転入者が増加傾向にあります。しかしながら、飽田地区には児童館児童室も子育てセンターもなく、近隣の施設に頼らざるをえない状況にあります。そこで、飽田地区の子育て家庭に対し、親子で安心できる場を提供し、子育てについて気軽に交流し、子どもの健やかな成長を共に育み、楽しい子育てをサポートする、子育てを支える環境づくりを目的に活動を始めました。

飽田地区の主婦たち（主任児童委員、小学校図書館司書、保育士、幼稚園教諭など）が、月２回の子育て会を開催し、子育て中の親子と一緒に、絵本の読み聞かせや、わらべうたや手作りおもちゃなどで遊び、子育てについて気軽に交流し、また子育てについての様々な講習会を定期的に開催する活動です。　　**＜これまでの活動の様子＞**

重点的に取り組んだこと/成果

当初、例年通り　月２回　第１・３土曜日　午前１０時～１２時　年２０回　〇お話し会 〇わらべうた遊び　〇身近な物でおもちゃ作り　〇季節の行事 〇子育て講話会　〇親子参加型の講習会　などを基本に活動しいく方針だったのですが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、開催場所の確保ができなくなり、人を集めることができなくなりました。

そこで、活動を以下の内容に変更し継続しました。

＜コロナ禍における活動＞

① 子育て情報「ほっこりキット」発送・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

２ヶ月に１回（6 月、8 月、10 月、12 月、2 月、各月の第 1 週目発送）、以下内容のキットを、昨年度「ほっこり子育てひろば」に参加した方に、郵送しました。

「ほっこりキット」の内容

〇表紙　ぬりえ
〇裏表紙　スタッフからの
　　直筆のご挨拶
　表裏表紙は A3
　　折り曲げた間に以下を
　　各項目を A4 一枚にまとめ
　　資料として挟み入れた
　・親子ふれあい遊びのやり方
　・おすすめの絵本
　・簡単クッキングレシピ
　・季節の折り紙折り方
〇手作りおもちゃ　〇折り紙
〇折り紙シアター
〇返信用はがき　他チラシ

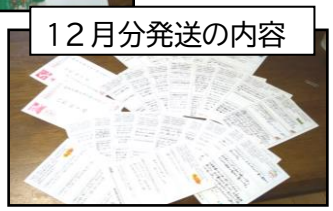
10 月分発送の内容

毎回、20 通から 25 通を発送しました。スタッフで、１頁ずつ担当し作成しました。

～返信のはがきから～

「早くコロナが落ち着いて、安心して出かけられるようになったら、また一緒に遊んで下さい」
「スタッフの方からのお手紙に、元気をいただきました」
「子どもの食事やおやつに悩むことが多いです。」

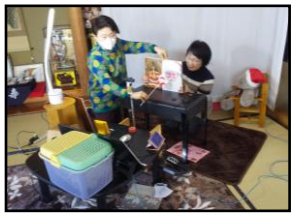
１２月分発送の内容



「コロナと梅雨の影響で出かけられないので、室内遊び
や絵本の紹介が載っていてありがたかったです」
「一緒にツリーを作ったり、クリスマスを楽しみました
グラノーラのケーキ美味しくできました!!」など多数寄せられました。

② zoom お話し会開催

zoomお話し会チラシ



Zoom お話し会
配信の様子
プログラムの中にほっこりキットで紹介したふれあい遊びや折り紙シアターのやり方を紹介しました。

＜開催までのスケジュール＞
6 月　　飽田公民館に zoom 講習会依頼
　　講習会にスタッフ参加
7 月　　スタッフ zoom 企画会議
8 月　　zoom お話し会プログラム決め
　　練習開始（zoom にて練習）
9 月　　必要機材購入
　　著作権許諾申請（各出版社へ）
10 月　zoom お話し会開催広報開始
　　飽田公民館より広報支援にて、
　　熊本市 Line 広報（2 回）
10 月 17 日　午前 10 時 30 分～11 時
　　zoom お話し会開催　親子 10 組参加
11 月　zoom にて 12 月 zoom お話し会
　　企画会議・プログラム決め
　　著作権使用許可を申請
　　プログラム変更・zoom にて練習
12 月 19 日　午前 10 時 30 分～11 時
　　zoom お話し会開催　親子１８組参加

～返信のハガキやメールでの感想より～
〇コロナでこのような機会がなかったし、北区在住ですが参加できてうれしかったです。
〇とても楽しかったです。もう終わっちゃうの～と言ってました。また是非参加します。
〇たまたま友人が参加していて、うれしかったです。1 ヶ月に 1 回くらいでやってください。

課題/解決に向けての取り組み

〇**「ほっこりキット」**は、子育ての役に立つような情報を集めたものにしましたが、子ども達の年齢も上がっていくので、内容も少しずつ変化していく必要があると思われます。
〇**「zoom お話し会」**は、こちらからの一方方向なので、画面上では聞き手の様子をうかがうこともできるが、交流という意味では欠ける点も多いと思われました。また、リモート機材ももっと充実させる必要もあると思われます。

今後の展開

〇通常の子育て支援であれば、お母さん同士が交流したりする機会が多いのですが、リモートや郵送では、それは皆無に等しいと思います。コロナの終息が未だ見えない現状においては、リモートの活用をよりよくするため、郵送でリモートのやり方を解説し、やってみようということで、いろんな方がリモートに気軽に挑戦し、リモート交流会が実現できるよう、取り組みたい思います。

連携団体

〇飽田まちづくりセンター、飽田公民館　　〇飽田地区民生委員児童委員協議会
〇飽田地区親子朗読ハイジの会　〇南区役所保健子ども課　〇飽田地区社会福祉協議会

問い合わせ

✉	📞	f or 📷
―	090-5927-7172 （北野　裕子）	―

白川小学校親児の会

活動を始めるきっかけ/活動概要

地域の子ども達の健全な育成に繋げるため、ＰＴＡや地域の行事等に対して、自由度の高い立場からのバックアップ的な活動を始めた。前年度まで、ＰＴＡや地域主催のイベント等（バザー、まつり、餅つき等）に積極的に協力しながら、子ども達が「楽しく遊べる」環境づくりや地域住民や子ども達の交流の活発化にも貢献してきた。

本年度は、当初、当会独自主催イベントを計画し、地域の関係機関にも協力要請を行っていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、「交流の活発化」という目的達成が困難になったため、子ども達の健全な育成に絞った形での活動となった。

重点的に取り組んだこと/成果

コロナ禍の中で、様々なイベントが中止となり、当会の活動についても見直す必要が生じたことから、①「密」にならない②子どもの興味を引きやすい③学校の協力を得やすい④次年度にも波及効果が期待できる、等を重点にして、当初の計画変更を行った。

まず当会で児童による「白川小学校カブトムシ幼虫飼育ダービー（仮称）」を立案し、白川小学校に協力を依頼し、８月までに当会でカブトムシ若齢幼虫及び飼育資材を準備、９月の２学期に併せて飼育を開始、経時的に白川小学校児童による育成マット交換及び幼虫生育量の観察等を行うこととした。

飼育スタート時の幼虫飼育用ケースづくりには、親児の会８名、白川小教員及び児童５名が参加し、10 匹入り飼育ケースを 22 個作り、白川小学校に提供した。白川小学校では、校内に白川小カブトムシハウスを設けて、担当教員の指導を受けながら児童が飼育を行っているところである。

親児の会による幼虫飼育用ケースづくり
（9月5日、白川小学校）

白川小学校での幼虫飼育状況

課題/解決に向けての取り組み

この時期は、幼虫の成育重量や大きさの変化観察等がメインになり、冬場になると成長量が停滞するため、児童の興味をいかに維持していくかが課題である。経時的な重量計測によるケースごとの成育比較、次年度の５月以降、蛹化や羽化まで飼育を継続することで劇的な状態変化が確認できるので、興味の継続に繋がることが期待される。

また学校内のみでの実施になっているので、カブトムシ飼育が地域の活性化に繋がるような取り組みを次年度に向けて検討する。

今後の展開

４月以降も児童による飼育を継続し、幼虫～蛹～成虫までの過程を実際に観察し、カブトムシの状態変化の実態を学校や各家庭内で話題にしてもらう。さらに飼育した成虫を地域内にリリースすることなど検討して、町なかの木々にもカブトムシがいるようなきっかけづくりになることを期待する。

連携団体

白川小学校、白川小学校ＰＴＡ

問い合わせ

		or
Pw3snsd@gmail.com	090-5483-0136 （担当者　西田　伸介）	―

学校法人熊本ＹＭＣＡ学園

活動を始めるきっかけ/活動概要

「子育て広場わいわい」との名称の下、子どもと共に外出する機会が少ない０歳～３歳までの乳幼児と保護者が、気軽に様々な分野の活動に参加することを通して、社会との繋がりを持ち、子どもと共に、楽しい時間を共有することで、子育てがより充実したものとなることを目指し活動に取り組んだ。活動を進める上で、熊本ＹＭＣＡに繋がる様々な専門性を持ったスタッフや学生、留学生等が協働することにより、独自の子育て支援の場の提供を目指した。

〇中止した事業：親子と子の音楽教室（6 月延期→12 月中止）／離乳食教室（8 月中止）
日本と世界あそび(9 月延期→1 月中止)

〇実施した事業：子育て広場わいわい：2020 年 12 月 3 日（木）英語であそぼう（10 組）／
12 月 7 日（月）リズムであそぼう(10 組)／12 月 17 日(木)親子であそぼう(9 組)
Youtube による歌あそびの配信（東京 YMCA 提供動画紹介）
（参考）http://tokyo.ymca.or.jp/news/2020/04/20200407.html
（参考）https://www.youtube.com/watch?v=67HkR5It4R8

コロナ禍において、法人全体で不特定多数の方と触れ合うことを制限する日々が続いたこと、また、全国的にも留学生や専門学校生の感染者が出た為、どうしてもこの世代の方と乳幼児との関わりを躊躇する時期が続いた。留学生や専門学校生も、授業や実習が延期になり、なかなかスケジュールを組むことが難しかったが、やっと見通したついたころ、再び、感染拡大傾向となり、活動を縮小せざるを得なくなった。

英語であそぼう

リズムであそぼ

親子であそぼう～クリスマス

重点的に取り組んだこと/成果

親子が安心して過ごすことができる場所の提供を心掛けた。そのため、入り口での検温、消毒薬の設置、十分な換気と運営スタッフのマスク着用と参加者との適切な距離には気を遣った。

外国の方との触れ合いの場は提供したいとの思いがあり、英語あそびの場を設定。外国人講師も日本語が得意ではなく、お互い、分かり合えるために、ジェスチャーなどを交え、笑顔があふれる会となった。また、外出制限が続いても、自宅でできる、親子遊びの提供を行うことを心がけた。これから先、また広場が開催できなくても、様々な工夫で遊ぶことを保護者に知っていただくことにより、ステイホーム中も楽しく子育てを行っていただければと願い取り組んだ。

東京ＹＭＣＡが新沢としひこさんの協力を得て実現した YouTube の動画配信の拡散を、熊本ＹＭＣＡ学園のインスタや HP を使って行い、家庭で過ごす親子に遊びの機会の提供を目指した。

課題/解決に向けての取り組み

2020 年度が始まった当初は、コロナ対策として何が正しいのか手探り状態が続き、本法人の様々な活動も、かなりの制限を行いながら取り組んだ。現在、コロナに対する感染リスクを減らすための対策がある程度見えてきたため、今後は少し見通しを持った対応ができるのではないかと考える。また、計画していた、外国籍の乳幼児へのかかわりについては、協働を期待していた方が、今回のコロナ禍の中、業務多忙になられたため、なかなか時間を割いていただくことができず、叶わなかった。ただし、どのような方法で繋がっていくかの第一歩は構築できたため、今後はこの繋がりを大切に、実際の動きに繋がるよう、活動を継続していきたい。

今後の展開

12 月に行った子育て広場では、「どこかに出かけたいけど怖い。」「久しぶりに楽しかった」などの声をいただいた。また、気軽に子どもの発達について話す場が欲しい。という声もいただき、誰かとつながり、話をしたいと思っていらっしゃる保護者の声を聴くことができた。そのため、今後はコロナ禍で何ができるかを考え、少人数で複数回、気軽に参加できるサロンのような開催や、専門家と気楽に話せる場、外国籍の子どもたちを持つ保護者への個別の対応なども考え、取り組んでいきたい。

連携団体

特になし

問い合わせ

suizenji@kumamoto-ymca.org gakuin@kumamoto-ymca.org	０９６―３６２－４１４１ （担当者：西本　愛）	or ―

子育てネットワーク「縁側 moyai」

活動を始めるきっかけ/活動概要

孤立した育児を防ぎ、ママたちの育児負担や悩みの軽減を目的に設立。

子育てに日々奮闘するママ達をつなげ『共助』によって『支え合う』３つのプロジェクト『お裾分けゆいまーる』『お互いさまゆいまーる』『縁側 moyai 食堂「ぐるり」』を中心に、ワークショップやセミナー、サークル活動、おさがり服譲渡会などを開催。週１～2 回のペースで活動中。

重点的に取り組んだこと/成果

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、対面でのイベントやワークショップ、特に食に関するプロジェクトの開催が困難な状況であった。

活動は、オンライン開催が主軸となった。従来、会場参加型で開催していたサークル活動、講座、ワークショップを zoom のライブ配信で開催。

海外在住の会員をゲストに迎えてのトークセッションや、県外在住の会員による親子料理教室など、県外海外の会員の参加も増えた。オンライン参加が一般化したことで、距離にとらわれない活動の企画・運営ができるようになった。

しかし、コロナ自粛でストレスや不安を抱える家庭も増加し、このような状況下だからこそ人とのふれあいの大切さも痛感した。

そこで、緊急事態宣言解除後、会場参加型の活動も再開。しかし、感染予防の観点から、一会場での収容人数が少人数に限られるため、熊本市各区に拠点を設け、各拠点をサテライト化しオンラインを併用することで、より多くの参加者を受け入れられるよう工夫した。また、区ごとに集まることにより、近隣のママ同士が交流しやすくなった。

特に感染対策が必要な食に関する活動である『お裾分けゆいまーる』『縁側 moyai 食堂「ぐるり」』については、参加人数や調理に関わるボランティア数を縮小し、活動拠点で簡単な昼食と憩いの場を提供するプロジェクト『ibasho』として活動を再開。時間にも空間にもゆとりが生まれ、昼食を囲んで楽しく歓談し、コロナ疲れを癒すママたちの居場所となった。

また、緊急事態宣言下では、家事育児の負担増を軽減するために、「みんなで支え合おう！共同購入」を開催。延べ 34 店舗の飲食店と共同購入を実施し、延べ 737 人の会員が利用。結果総売上額が 2,557,840 円となり、消費の低迷が続く飲食店への支援にもつながった。

7 月には熊本県南部の球磨川流域を中心に発生した集中豪雨で被災した地域を、ママの視点から災害支援。芦北・人吉・坂本の三拠点にある保育園や子どもの居場所づくり・学習支援を行う活動団体を通して、子どもにとって必要なもの、子育て世帯にとって必要なものに特化した支援を展開。

また、支援活動の一環として、自粛続きの夏休みの思い出作りも兼ねた椅子づくりのワークショップを実施。会員が親子で作成した椅子を被災した保育園に寄贈した。

課題/解決に向けての取り組み

with コロナの時代にあってオンラインツールは不可欠なので、ネットワーク環境を整備。IT 機器の整備と web 発信力の強化。

育児に悩むママのニーズをキャッチアップするために、地域や行政との連携強化。

理念に沿った活動を継続するための組織づくり、運営基盤の整備。人材の確保やガバナンスの強化。

今後の展開

居場所や情報を必要としているママへ縁側moyai の活動を周知するためのイベントを開催予定。

団体活動紹介や、ママと子どもに楽しんでもらえるようなミニイベント、支援団体・企業によるブースの出店。行政の保健師による情報提供・相談窓口の設置などを予定している。このイベントを通して子育て中のママが孤立化せず、安心して楽しく育児ができるよう縁側 moyai の「支え合い」の輪を広げたい。

連携団体

フードバンク熊本、地域食堂ネットワーク TSUDOU-NET、NPO 法人「子育てネットワーク　わ・わ・わ」、熊本市市民活動センター・あいぽーと、熊本市男女共同参画センターはあもにい、熊本市中央区まちづくりセンター、熊本市南区まちづくりセンター、熊本転入ママの会くまてん、Yell チャイルドマインダー熊本の会、シンママ応援団、ハッピーパーク、多胎児サークル「ダブルハッピー」、など

問い合わせ

engawamoyai@gmail.com	090-9077－7858 （担当:松野　愛）	子育てネットワーク『縁側 moyai』Facebook 【公式】縁側 moyai Instagram

NPO 法人子育て支援ワーカーズぺぺぺぺらん

活動を始めるきっかけ/活動概要

核家族化した子育てが電子メディアによって変化するなか、乳幼児からのことば環境が歴然と悪くなっています。子どもたちの健全な育成は、乳幼児期から始まります。大人がしっかりと関わることが人間の子どもを人間らしく育て上げていきます。そこの根本的なことを知ってもらうことで、真の意味での豊かな子育てをサポートしていきます。

重点的に取り組んだこと/成果

キッズルームでは絵本やわらべうたを通した言葉体験やコミュ―ケーションの大切さなど、親子で楽しんでもらえる様に努めました。たくさんの絵本やわらべうたを聞くことで豊かな言葉や親子の信頼関係ができてきていると感じました。

また、子育てママのための講座では、子どもの育ちの中で大事な話を聞くことが、育児に役立つヒントになると思い取り組みました。

それぞれの講座に参加されたお母さんたちはとても満足そうな表情でした。聞いた事、感じた事を実践されていく中で、子どもの成長を見ることが出来ると期待しています。

4 月 2 日（木）～2021 年 3 月 18 日（木）予定

キッズルーム
参加　5 組

絵本、わらべうたを楽しみました。

7 月 30 日（木）
「子どもの靴と足のはなし」

参加　5 組

足の成長にあわせた靴選びなどを学びました。

9 月 10 日（木）
「おやこ時間を楽しくするおもちゃあそび」

参加　3 組

遊びを通しておもちゃをうまく活用するお話を聞きました。

11 月 12 日（木）「親と子のための免疫力アップ料理」

参加　5 組

コロナウイルスにまけないように、免疫力アップの料理を体験しました。

2021 年　2 月 25 日（木）　　「乳歯と永久歯の関係」

課題/解決に向けての取り組み

今年度はコロナ過の中での開催でした。会場の広さで参加人数が決まりますので、沢山の方への案内は厳しい状況でした。

今後の展開

絵本、わらべうた、子もり唄の良さを知ってもらい、子育てにたくさん取り入れてもらうことで、楽しく子育てしてほしいと願います。

お母さん方が集うことで、子育ての悩みや事相談、情報の発信ができる場を提供していきたと思います。

連携団体

特にありません

問い合わせ

mail@pepepeperan.com	096-337-0450 （担当者　　椎葉　信子）	—

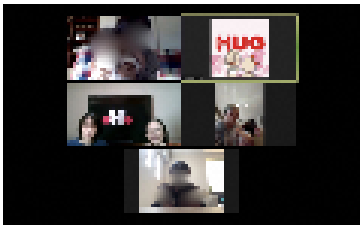
育児サークル HUG

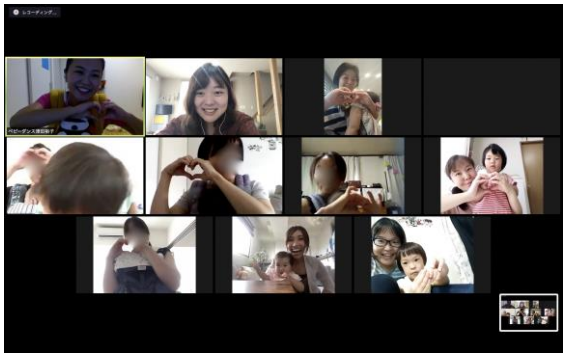
活動を始めるきっかけ/活動概要

１）育児サークル『HUG』は、平成１２年（２０００年）１０月に、ゆのはら産婦人科医院の助産師とゆのはら産婦人科医院で出産されたお母様によって「母乳で育てるお母さま達の集い」を目的とし設立された育児サークル。 今年度は２０周年という記念すべき年だった。
サークルの名前にもある『HUG』は、「抱く（HUG)」と、「育む」の二つの由来がある。
熊本地震の年に、「母乳で育てることだけが『育児』ではない」という意味から 当時の『母乳育児サークル HUG』から現在の名称に変更。赤ちゃん本来の甘えを満たす子育てに関心を持ち、実践している母子の交流を図るとともに、社会に対して母乳のみならず子育てへの理解を求め、子育ての楽しみを見出せる環境作りを実践していくことを目的として活動を行なっている。現在は、出産した産院問わず、子育てに関心のあるお父様、お母様にご参加頂いている。例年では、毎月第二金曜日に南熊本老人憩いの家で行なっていたが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、急遽オンラインでの開催に形式を変更。毎月第二金曜日に行なっている。

２）２０２０年度活動の実績報告
９月１１日ベビーダンス １月８日小児発達 １０月９日絵本・手遊び ２月１２日ベビーヨガ
１１月３日米粉離乳食 ３月１２日子育て講話 １２月１１日お片づけ講話

３）活動の様子





重点的に取り組んだこと/成果

今年度は対面での開催が厳しい中、『今私たちにできることをやる』という考えのもと、子育て中の役員で開催継続をした。初めての取り組みでもあるオンラインは、『ZOOM』を使用して月に一回開催をした。

また今後対面に戻ったとしても人数制限等の条件など予測できない状況も見越して、事前予約システムの導入や個人情報を守りながら気軽に相談をしていただける『公式ライン』の導入など、今まで行なっていなかったシステムを取り入れた。事前予約システムには、『今相談したいこと』の欄を設け、頂いた質問は事前に役員で回答を話し合ったり助産師に回答を仰いだりと、いろんな視点からの回答を準備している。

また年間スケジュールもオンライン開催に切り替えることで一掃し、この時期だからこそお母様方に届けたい内容へと変更をした。 オンラインシステムの導入、そして講演内容の変更等の成果もあり、 毎月少しずつだが参加者も増え、リピートして参加される方も多くみられる。

課題/解決に向けての取り組み

長時間のオンライン使用での産後の体への負担も考慮し、開催自体を１時間で行なっており、内 訳として４０分の講演会と２０分の座談会を設けている。対面とは違ったコミュニケーション手段ということもあり、２０分の座談会では参加者が受け身になってしまうことも多々ある。今後は、オンラインで開催する際は、講演も座談会も司会の仕切り方や反応の拾い方など、より一層役員が意識をして取り組む必要がある。

今後の展開

感染拡大防止に努めながら、オンラインと対面での併用開催も視野に継続して子育て中の母子の拠り所となれるよう活動を継続していきたい。

連携団体

特になし。

問い合わせ

bonyuu.hug@gmail.com	—	公式ライン：「@６６９vizad」 ↑@から ID で検索

尾ノ上コミュニティ食堂「陽だまりの樹」

活動を始めるきっかけ/活動概要

共働きやひとり親世帯、一人暮らし高齢者の家庭が増え、子どもや高齢者の孤食が増えている。小学校の給食がない日や代休の日に、自宅に昼食がなく、お金だけ渡されコンビニや駄菓子屋などで買って食べる子どもも多い。

働く親にとっても、朝から子どもの昼食を準備して仕事に行くのは負担が大きく、そのような親の負担を減らすためにも、みんなで集まって楽しく温かい食事をしてほしい。

また、子どもたちと一緒に食事の支度や、おやつ作りをすることで、食に関心を持ち、きちんとした食事をとることの大切さを教えていきたい。

放課後や学校が休みの日に一人で過ごすのではなく、友達と一緒に食事したり遊んだりする居場所でありたい。

ひとり親世帯の大変さはもとより、今年度はコロナで収入が減った世帯も多く、また孤食を少しでも減らしたいとの思いがあり、誰もが参加できる「コミュニティ食堂」にすることで皆が気兼ねなく利用でき、子どもや高齢者が地域とのかかわりを深めていける場所にしたい。

重点的に取り組んだこと/成果

今年度はコロナで小学校が休校になり、開催回数や利用者数も増えた。感染防止対策として、会食形式から持ち帰り形式に変更し、また家族の分なども一緒に持ち帰り可能としたことで、利用者が増えた。子ども食堂＝貧困という偏見をなくし、本当に支援を必要とする困窮家庭やひとり親家庭、地域の高齢者の方々などに気兼ねなく利用していただける場所にしてゆく。

公式ラインを使うことで、予約制にし、急なお知らせや中止などもできるようになった。

ひとり親家庭や、コロナなどで収入が減った家庭に、応援セットという形で食品やお菓子、ジュースなど厚めの支援を入れるように心掛けた。

コロナ対策の助成金で、必要な備品やコロナ対策に使う物品などを揃えることが出来た。

コロナで出荷量が落ち、廃棄になってしまう野菜や規格外の野菜などを農家からいただいたり、人手不足の農家の手伝いに行き、野菜をいただいたりしたものをフードパントリー（無料配布）や食堂の食材に活用した。自然災害などでキャンセルが出て納品できなくなった日配品などを業者からいただいたり、賞味期限の近いものを格安で仕入れたりと食品ロスを減らす取り組みに協力した。

ボランティアスタッフが不足していたが、地域のイベント「くまもと未来のおしごとフェスタin錦ヶ丘」の炊き出しに参加した時、大学生のボランティアサークルとの繋がりができ、安定した人数を確保できるようになった。

課題/解決に向けての取り組み

緊急事態宣言発出当初、公共施設である老人憩いの家が閉鎖され、食堂開催が出来なくなった。熊本市の担当部署に、こんな時だからこそ必要な支援であるということをお伝えして利用できるようしていただいた。利用者が増えたことで、食材などの買い出しの負担が増えていたため、多くを食品業者から購入した。よって食材費も抑えられ、買い出しなどの負担も減った。

予約制にしたことで、事前に数を把握しやすくなったが、電話や SNS、口頭での予約などバラバラで、予約漏れなどが多かったため、公式 LINE 一本に絞った。そうすることで間違いが減り、管理しやすくなった。

今後の展開

利用者が増えたことから、利用者を制限してはどうかという意見もある中、ご利用いただいているひとり親家庭から、「利用者が限定されておらず、誰でも利用できるので、安心して利用することが出来る」「ひとり親家庭などの応援セットがとても助かる」という話もあり、今後も本当に支援の必要な方が気兼ねなく利用できる場所であり、困ったときには SOS が出せる場所として続けていきたい。

学校へのチラシ配布が一番の課題であると考える。教育委員会の協賛が取れることになったので、4 月初めに案内のチラシを入れることで、開催ごとのチラシ配布の負担を減らし、対象児童すべてに情報が行くようにしていく。

今年度設立した、一般社団法人熊本県こども食堂ネットワークとの連携を取りながら、熊本県や市とのつながりも深め、他の食堂とのつながりも深めていく。

農家とのつながり、メーカーや様々な食品業者などとも連携し、フードロスを減らしていくと同時に、ひとり親家庭などの支援につなげてゆきたい。

連携団体

一社）熊本県こども食堂ネットワーク、フードバンク熊本
他、熊本県下の子ども食堂

問い合わせ

ymymt223@gmail.com	090-4355-3320 （担当者　堤　雅）	Facebook　陽だまりの樹 https://ymymt223.wixsite.com/mysite

ほがらか食堂

活動を始めるきっかけ/活動概要

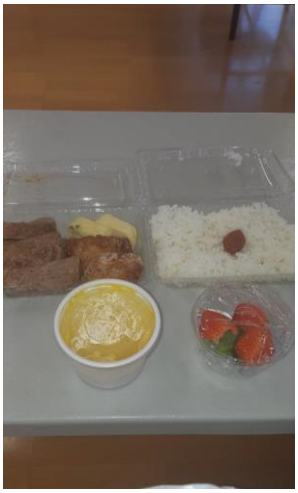
退職後に自分にできるボランティア活動をしたいと思っていました。
地域の方や子ども達、働くお母さんに元気になって貰える居場所を作りたいと思って始めました。

重点的に取り組んだこと/成果

今年度は新型コロナウイルス感染症で食事の提供が出来ず、パントリーでの活動でした。7月は「赤い羽根子どもと家族の緊急支援全国キャンペーン」の助成による子ども達へのお弁当配布をしました。

　また9月は子供服の0円ショップで豪雨災害の募金を募り寄付しました。10月から12月まで3回農林水産省の事業で県産食材を使ったお弁当を30食限定で、逢桜の里様の厨房をお借りして作りました。活動を続けている中でお母さん達の口コミで参加者も少しずつ増えました。

ほがらか食堂 2020年度活動報告写真



課題/解決に向けての取り組み

コミセンが使えなくなるたびに広報が難しくなるので、配布品の中にどちらから支援して貰ったのか、次回は何時からなのかわかるようにチラシを入れています。

今後の展開

コミセンが使えるようになれば、食事の提供を。それまではパントリーとして活動を続けていきたい。

連携団体

TSUDOU・NET
逢桜の里
楡木子ども食堂なごみ
食育体験！たつだ・こどもカフェ
みんなの食堂
たくとう地域食堂

問い合わせ

a38suzei4yb4462u2dmb@docomo.ne.jp	090-5928-3772	http://ww.facebook.com/tamikn.suetugu

楡木子ども地域食堂なごみ

活動を始めるきっかけ/活動概要

　当団体活動地区近郊が新興住宅となり、ひとり親世帯を含む子育て世代の増加が見られる。又コロナ禍による家庭環境も変化したことで、子どもや高齢者の孤立・孤食も増えている。その為、健康維持も含めた多世代交流の場が必要と考えた。

・３月～７月前半：パントリー（弁当・食料品・米など）開催。月６～８回

・７月後半～現在：体験イベント&食事会（炊き出し含む）、夏休み学習支援・食育含む会食、収穫体験、防災学習、縁日（夏休み）・クリスマスケーキ作り・正月伝承遊び

重点的に取り組んだこと/成果

2020 年 3～6 月は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、子供地域食堂の会食を見合わせ、フードパントリー形式（弁当配布・食料品・野菜配布）で開催した。開催ごとにフードパントリーを希望する家庭が増えた。お弁当配布数が 2600 食あまりにのぼった。

7 月になると企業、個人様よりご支援ご協力を頂く数が増えた。

熊本のコロナレベルは 4 であったが子どもたちの孤立化、栄養の偏りや精神面が懸念された。感染症対策、食中毒対策を強化し、施設内の衛生管理、危機管理をしっかり整えて（倉庫内換気、大型テントの設置、パーテーションの設置）子ども地域食堂開催に踏み切った。

体験イベント（収穫体験、食育、防災、縁日、ライブ・環境学習・伝承遊び等）や食事会（状況により弁当配布・炊き出しに変更）を行い、多世代交流を軸とした地域づくり・居場所づくりができた。何より子供達の溢れんばかりの笑顔に私たちは励まされました。

フードパントリー参加家庭の子ども地域食堂への参加が増えた。

課題/解決に向けての取り組み

コロナ禍における保護者の家計逼迫や離婚が増えている事から食材等パントリーの必要な家庭への周知が必須

Facebook・SNS・参加家族からの紹介・行政との連携を強化する

今後の展開

今後も安心・安全に子育てしやすい地域作りを行うことができるように、他団体や行政、地域の企業との連携を強化しながら活動していきたいと思います

連携団体

自治会、老人会、子ども会、楠保育園、楡木小学校、民生委員、青少年育成協議会、子育て支援センター、ＪＡ熊本市女性部会、フードバンク熊本、熊本県子ども食堂ネットワーク、逢桜の里、子どもから拡がれネットワーク（TSUDOU.NET）、楡木スリーボッチャーズ

問い合わせ

nagomisyokudou0811@gmail.com	090-8669-0452	楡木子ども地域食堂 なごみ Facebook https://m.facebook.com/nagomi20190811/

西原地域食堂「よってっ亭」（にしばる地域食堂実行委員会）

活動を始めるきっかけ/活動概要

校区の中で核家族化や高齢化により、地域住民の関係性が希薄化し、交流の機会が減少している。子どもや高齢者が気軽に立ち寄れる多世代交流の場として地域食堂を実施することになった。

重点的に取り組んだこと/成果

◎地域食堂開催にあたり、高齢者の中でも女性に比べ参加者が少ない男性高齢者が調理を含め活動の中心となるように、各町内老人会に働きかけた。
◎自治会の協力だけでなく、小学校、PTA、ささえりあにも協力を依頼し、校区全体に情報が伝わるように工夫した。
◎コロナ禍の中での会食が困難なため、持ち帰りでの対応を実施した。
◎新しい視点を入れるために、県立大学の大学生にも協力を依頼し、広報活動など協力を得ることができた。

課題/解決に向けての取り組み

◎校区全体への周知が不十分。(特に、高齢者)
◎校区の各種団体に協力を依頼し、校区が一丸となって取り組む事業にしたい。

今後の展開

◎現在は、限られたメンバーでの実施となっているが、広く協力を得るために校区内の事業所等に協力を呼びかけ支援者を広げたい。
◎食材調達法の検討が必要

連携団体

・西原校区自治協議会　・西原小学校 PTA　・ささえりあ保田窪
・鶴田病院　・熊本県立大学　・社会福祉法人朋岳園

問い合わせ

shinobuhigu@gmail.com	090-5088-5245 日隈　忍（ひぐま　しのぶ）	—

Yell つながるカフェ（Yell チャイルドマインダー熊本の会）

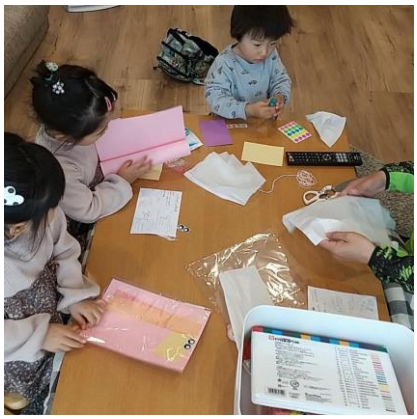
活動を始めるきっかけ/活動概要

2014 年 6 月子育て支援団体として Yell チャイルドマインダー熊本の会を発足。主に就園前の子どもを持つ親子を対象にして集う場所を作り子育て支援活動を行っていた。その活動の流れから、食を通したコミュニケーションの場を作り、子どもの食育や親子支援、子どもの育ちの支援も行おうと、2017 年 9 月より子ども地域食堂「Yell つながるカフェ」を開始。毎月第 1 木曜日 11 時～14 時開催。（夏・冬休みに追加 1 回ほど食堂とワークショップなども実施）2020 年 2 月まではビュッフェ式の会食にて実施していたが、コロナにより 3，4 月のみ休止。5 月より食品パントリーと手作りおもちゃキットの配布、10 月より軽食のお弁当と食品パントリーとおもちゃキットの配布に変更し継続している。

重点的に取り組んだこと/成果

私たちの団体は「子どもの成長を親と共に見守り育てる」「子育てしやすい環境を作る」をコンセプトとして活動している。その子を取り巻く環境（親やその子を取り巻くすべての人、家庭環境・社会環境など）を整えることで子どもの心の貧困を防止することを目的とし、その一つの方法として、子ども・地域食堂を開催している。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、親子の居場所がなくなってしまった状況で、食を通してコミュニケーションの場を作り親子支援をしてきた私たちがするべきことはどんなことか、できることは何かを考え、パントリーでの食の支援をすると共に、子どもとの時間を楽しいものにするために画用紙や紙コップ、ペットボトルなどの廃材を用いて作る「手作りおもちゃキット」を制作し配布した。

成果としては、活動再開時に来られた母親から「つながるカフェに行くというような理由をつけないと、外に出られなかった。2 ヵ月近く外に出ることができなかった」との声も聴かれ、制約された生活で疲れている様子を感じた。また、来た時は暗い不安な表情の母親が、声をかけ日常の様子を聞くだけでも表情が明るくなり「家でイライラしていたけど今日はおしゃべりできてよかった」と笑顔になられた。また、手作りおもちゃは家で作成してもらうため、「小学生の上の子が作って、一緒に楽しく遊んでくれます。次は何だろうね、と毎月楽しみにしています」との声も聴かれ、家族間のコミュニケーションのツールともなっている。パントリーになってから、利用者が増え、おもちゃも上の子どもの分も持ち帰る方や取りに来ることができない方への配達含め、毎回 30 名前後の申し込みがある状況である。



課題/解決に向けての取り組み

これからの課題としては、①新型コロナウイルス感染症のリスクを抱えている②新型コロナウイルス感染症により開催場所の使用料やパントリー用の容器代など、例年と違う経費が増えている③参加者との会話時間が短く状況を把握することが困難である、ということがある。

その解決に向けて、①できる限りの予防対策を行いながら継続できるようにする②食材などをできるだけ安く仕入れる方法を検討する、また寄付の声掛けなどを行う③新型コロナウイルス感染症の影響があるうちは、LINE などの SNS を使いながらオンラインでのつながりを継続し、子育て中の方が孤立しないように心がける。

今後の展開

今後も新型コロナウイルス感染症拡大の状況により活動がどのような形でできるかわからないが、最低でも今の状況を維持しながら、親子が孤立せず、社会との接点を持ち続けるようにしていきたい。コロナにより生活が変わっていく家庭もあると予測されるため、声掛け・見守りを行う。新型コロナウイルス感染症が終息した場合は会食を再開し、みんなと会話の時間を持つことで、親の心の余裕ができのびのびとした子育てができる、子どもたちの生育環境を整えていく。

連携団体

一般社団法人熊本県こども食堂ネットワーク
県内各地の子ども地域食堂
熊本県ひとり親福祉協議会

問い合わせ

child.yell@gmail.com	090-9599-4788 （担当者 髙井　眞弓）	Yell（エール）Facebook https://www.facebook.com/Yell エール-1515125778706579

食育体験！たつだ・こどもカフェ

活動を始めるきっかけ/活動概要

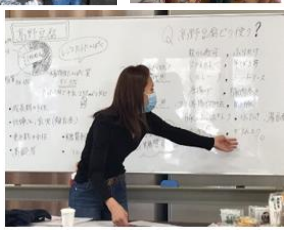
少子高齢化が懸念される中、核家族が増え地域の希薄化が心配されている。地域の校区は、ひとり親家庭、両親がいても共働きで帰宅が遅く子どもの孤食が心配される。また、一人暮らの高齢者の孤立化も進んでいる。そんな中で起きた熊本地震、地域との関りがとても大切だと感じました。

当団体は、子育て中のお母さんが孤独にならないように育児を楽しめるように、孤食の多い子ども達、高齢者の方、地域の方、誰もが協力し合い一緒に調理をすることで会話が生まれ、料理を覚えることで子ども達に生きる力を育み、子育て中の方は仲間作りに、高齢者の方には生活意欲向上など、また地元の食材を調理に活かすことで地産地消・環境保護にも繋げる。みんなの居場所（サードプレイス・第三の居場所）となる場所を作り共生型コミュニティーを作りたいと２０１６年から毎月第一日曜日に、熊本市北区龍田陳内アースフーズ建物内で食育体験・食事提供を行ってきた。アースフーズ様より利用が困難になったと伝えられ、２０２０年１月より龍田地域コミュニティセンターにて、今まで同様に毎月第一日曜日開催している。毎回２０～５０人程度参加。

２０２０年度は、コロナウイルス警戒レベルが上がり会場の利用ができない月があり、地域の方の自宅の駐車場やコミュニティセンターの玄関先・駐車場にて食材配布を行っています。

4 月 30 日　初おすそわけ会（コミュニティセンター駐車場にて）
5 月 18 日　おすそわけ会（T 様宅の駐車場にて）
6 月 28 日　おすそわけ会・初ゼロ円ショップ（コミュニティセンターの駐車場・ホールにて）
7 月 26 日　おすそわけ会・ゼロ円ショップ・豪雨災害支援募金
（コミュニティセンターの駐車場・ホールにて）
8 月 23 日　おすそわけ会・豪雨災害支援募金（コミュニティセンター駐車場にて）
コロナ警戒レベルが上がりゼロ円ショップ中止、支援金を人吉子ども食堂へ
9 月 20 日　おすそわけ会・ゼロ円ショップ・豪雨災害支援募金
10 月 18 日　食育体験（ハヤシライス・マグロのフライ・パン・ロールケーキなど）
11 月 1 日　食育体験（手巻き寿司・鯛のお吸い物・高野豆腐と野菜の煮物とお焼きなど）
12 月 6 日　味噌作り体験（味噌炒め・魚のソテー・ブロマンジュなど）

活躍の様子



重点的に取り組んだこと/成果

　コロナ禍で会場の利用ができず食育体験ができない時期がありました。休校や収入減など生活が急変されていると聞き、少しでもお役に立てたらと集まった支援物資を「おすそわけ会」で配布し、ボランティアスタッフが不用品を持ち寄り、ゼロ円ショップを行い豪雨災害支援募金に繋げました。コロナ警戒レベルが下がり 10 月から半年ぶりに食育体験を開催できました。毎回、参加される方・ボランティアスタッフが気持ちよく過ごせるように、相手の言葉を否定せず受け止めてから自分の意見を話すようにすること。コロナウイルス感染対策に体温測定・手洗い・消毒・アンケート記入の協力・空間除菌など安全に運営できるように努めた。

活動の成果
・子育て中のお母さんが離婚され大変されている様子だった。お話して料理の本の出版に携われていたと活き活きと話されていた、食育体験で講師をお願いし参加された子ども達・地域の方に乾物の調理法や栄養価の説明をしていただき皆さん真剣に聞かれ、講師も参加者も、とても勉強になったと喜ばれた。
・ボランティアスタッフで一番の先輩８３歳の A さんに美味しい緑茶の淹れ方を指導していただいた。ペットボトルの利用が増えていますが、湯冷ましを使って急須で淹れたお茶は優しい味で「おもてなしの心」とカテキン成分で寒い季節も元気にと教えていただいた。
・野菜嫌いの子ども達が、美味しそうに食べるようになった。
・「子育てがこんなに大変だと思わなかった。私は周りの方に助けてもらえたけど、困っている方がいると思うので、これからも頑張ってください。」と支援をいただいた。
・年金生活だが、ご主人から生活費がなく食べる物が無いと連絡があり食材を届けて話していくうちに、子ども食堂に関心を持たれるようになり１１月から参加されるようになった。
・活動の様子を熊本日日新聞社・朝日新聞社様、龍田校区社協だよりに掲載していただいた。
・地域の回覧板や北区の電子掲示板・LINE でチラシを配信していただけるようになった。
・企業の方からボランティア支援にきていただけた。

課題/解決に向けての取り組み

課題：安全に活動できるよう、ボランティアスタッフの増員・調理指導方法や衛生面の共有
　　ボランティアスタッフの一方的な善意の押し付けや意図しないハラスメントなどの予防
解決向けて：年に数回でも研修や講座を全員で受ける（出前講座・勉強会）・感染対策用備品の購入

今後の展開

・地域での認知度を上げ参加者を増やす(看板・チラシ配布場所を増やす)
・ボランティアスタッフの募集・学習支援、朝食支援、料理教室

連携団体

・TSUDOU・NET 熊本・フードバンク熊本・他のこども食堂・龍田まちづくりセンター
・龍田校区社会福祉協議会・民生児童委員・グリーンコープ生協くまもと・カネイチ

問い合わせ

imryre1018@gmail.com	090-9565-2478 （担当者 井村　ユリエ）	食育体験！たつだ・こどもカフェ Facebook

縁側サロン竹ちゃんち

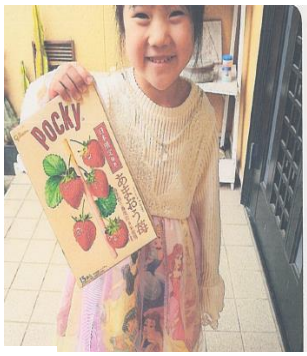
活動を始めるきっかけ/活動概要

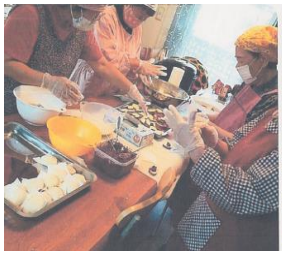
兼ねてより孤立しない育児支援で、子育てサークルを開設した。核家族化が進むなか地域との関わりも少なくなり、子育て世代には生活しにくい環境にあると感じ、子育て世代と地域との交流を深められる居場所の提供と食を通じての多世代交流ができる居場所となれば良いと思い、自宅を開放し月に 2 回を基本として、年 2 回のイベントなどもとり入れ開催している。

重点的に取り組んだこと/成果

コロナ禍においてのひとり親家庭への物資の配布を通じ、生活環境や困り事などを直に聞くことが多くなった。弁当配布が中心となったこともあり、家族構成や人数などが見えてきて、必要とする支援を身近に感じ知ることができた。

また、民生員さん方の協力もあり高齢者生活苦者への弁当配布や物資の配布を以前より多く出来ることができた。





課題/解決に向けての取り組み

身近な地域において、まだまだ周知がうすく、学校へのアプローチなども必要と感じている。地域の方のお手伝いボランティアが増えること。積極的に声かけを行うよう、自治会への協力要請を行う。子供会や老人会の会長役の方々と交流を深め協力や周知の解決になるようにする。

今後の展開

日々子育てに追われているお母さんや働くお母さんたちの支援として、不定期ではあるが、週末の昼、平日の夜を対象に「そうざいの日」を設ける。お母さん支援をすることで日々の労力の軽減になればと感じる。コロナ禍でできなかった公民館での「みんなでご飯会」もスタートできたらと思っている。

連携団体

鳶町自治会、子ども会、老人会、民生委員主任児童員、
フードバンク熊本(食材提供)、
キワニスクラブ(子ども食堂委員会)、
(一社)熊本県こども食堂ネットワーク、
(一社)全国こども食堂ネットワークむすびえ、
(一社)食支援活動協力会、
熊本県子ども家庭福祉課、
サイバーレコード(食材支援)、
(株)ドラゴンキッチン、
熊本県社会福祉協議会、
熊本県ひとり親福祉協議会

問い合わせ

merimero0412@gmail.com	090-5726-2504 (担当者竹下　紀子)	**子ども地域食堂おうち食堂竹ちゃんち Facebook** https://m.facebook.com/ouchiRanchi/

みんなの食堂

活動を始めるきっかけ/活動概要

活動の概要は、共助を必要としていらっしゃる方の手助け・子ども達に食に関する興味を持ってもらうこと・孤食予防・地域の幅広い方々の交流の場の提供などを活動の目的とし、年間 6 回以上の開催を行う。

重点的に取り組んだこと/成果

今年度は、昨年最後にアンケートを取った際に、子ども達から「料理を作ってみたい」という答えが多かったので、当初の案では子ども達の休みの期間を中心に一緒に料理を作る予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響でコミセンが使えず、パントリーという形での支援が多かったので、パントリーでお渡しする食材（頂いた食材等）で出来るレシピを考えだし、{レッツ！トライクッキング！} と銘打ち、お渡しするときにそのレシピを添えて、各家庭で作ってもらいその様子を写真で送っていただきインタグラムで紹介しました。

令和 2 年	支援内容	子ども人数	大人人数	
4 月	要支援家族フードパントリー	15 家族 子ども 26 人老人 2 人		
5 月	フードパントリー	17 家族 子ども 23 人大人 20 人		
6 月 13 日	フードパントリー＆弁当配布	28	12	支援品のみ 17 人
7 月 11 日	フードパントリー	22 家族（子ども 39 人大人 16 人） ＆熊本大学留学生		
8 月 22 日	フードパントリー	19 家族 子ども 37 人大人 15 人		
10 月 17 日	フードパントリー＆弁当配布	30	13	
12 月	要支援家族フードパントリー	10 家族（子ども 21 人大人 10 人）		
12 月 19 日	フードパントリー＆弁当配布	28	15	
1 月 23 日	要支援家族フードパントリー	14 家族（子ども 24 人大人 14 人）		
2 月 27 日	フードパントリー＆弁当配布	32	11	支援品のみ 8 人

レッツ！トライクッキング！　8 月夏祭り　みそ玉作り　12 月のお弁当

熊本豪雨災害の際には、子ども食堂の連携団体と支援に行く機会をいただき災害に遭われた方の様子をより身近に感じました。それを伝えたSNSでの報告で、食堂開催時に募金も集まり、微力ですが被災者の方にお渡し出来ました。

また、今年度は地球温暖化対策推進委員の方とつながり、校区のコンビニ店が処分する食品を賞味期限前に頂きパントリーなどで配布する取り組みを試みました。

スクールソーシャルワーカーの方と繋がれた事も情報共有が出来て良かったと思いました。

課題/解決に向けての取り組み

新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、コロナ禍にて、いま支援を必要な方とどう繋がっていくか、コミュニティセンターに迷惑がかからない（クラスターの発生などがおきないように）形でどのように支援していくか、ボランティアスタッフの方々に感染リスクのないように動いてもらえるかなど課題は山積みです。

解決に向けての取り組みとして、まず密にならないように,SNSや張り紙で告知した後に、参加する方は事前に申し込みしていただき、時間の間隔を開けて取りに来ていただきました。また、新型コロナウイルス感染症の拡大期はコミュニティセンター内に入る人数を制限して車で待っていてもらいました。スタッフ側の対応としては、参加者同様に検温、手洗い、消毒、健康チェックを行ない、フェイスシールドの着用、衛生管理に気をつけました。

新型コロナウイルス感染症の影響で生活が苦しくなってしまった方など、支援を必要な方と繋がることはなかなかむずかしいのかもしれませんが、食堂に来てくれる方や、SNSなどで「周りに気になる方がいましたら、食堂のことを伝えてください」と地道にお伝えしていくようにしたいと思っています。

今後の展開

いつ収まるかわからないWithコロナの中での運営は不安しかありません。
やれることを、安全に気をつけてやっていくしかないと思います。
昨年同様に臨機応変に対応して子ども食堂の運営をしたいと思います。

連携団体

フードバンク熊本、逢桜の里、熊本県子ども食堂ネットワーク、子どもから地域に拡がれネットワーク

問い合わせ

Fan1515minnna@gmail.com	090-5295-3170 （担当者　齋藤　直世）	みんなの食堂 ID：minnanoshokudo

一般社団法人こどもキッチンブルービー

活動を始めるきっかけ/活動概要

地域で目の当たりにした子どもたちの孤食や、農家さんから廃棄野菜について相談を受けた事がきっかけで「こども食堂」を開設しました。親の共働きや核家族化により、子どもだけになりがちな土曜日のお昼に食事を提供しています。孤食を減らし、食べる事の大切さや温かさを知ってもらい、多様な人との関りで社会性やコミュニケーション能力を高めてほしいと思っています。

また、生活の負担が少しでも軽減できるよう、食堂と併せてフードパントリー（食材の提供）も開催しています。年に数回行う野外活動では、野菜の収穫体験や野外食堂を取り入れ、土に触れてもらい自然を感じるような機会をつくっています。

重点的に取り組んだこと/成果

コロナ禍における食の支援（弁当）

（内容）食堂での会食が困難となり、弁当に切り替えて食事の提供を行った。

（成果）普段、食堂を利用できない同居家族の方にも、弁当を持ち帰る事で利用してもらうことができた。また、新規利用者数が増加した。

コロナ禍における食の支援（フードパントリー）

（内容）食材の寄付や企業からのフードロス商品の配布を行った。

（成果）休業や失業により生活苦が出てきている中での食材配布は、多くの方に喜んでいただけた。また、新規利用者数が増加した。

ひとり親家庭の支援（25 世帯）

（内容）日用品や食品の個別配布を行った。

（成果）個別に対応する事で、ひとり親家庭の方々との関係性を築く事ができた。

課題/解決に向けての取り組み

子どもと親の課題を早期に発見、早期対応ができるように各機関との連携、仕組みづくりを行う。

今後の展開

・子ども食堂の継続
・ひとり親家庭・困窮家庭のサポートの拡充
・他団体との連携事業の強化

連携団体

グリーンコープ生活協同組合くまもと
一般社団法人熊本県こども食堂ネットワーク
一般社団法人ロハス南阿蘇たすけあい
一般社団法人全国食支援活動協力会
熊本農業高校
キワニスクラブ熊本
西南ロータリークラブ
川尻小学校・保護者会、城南中学校、川尻校区自治会

問い合わせ

kodomokitchenbluebee@gmail.com	070-5810-4568 （担当者　松枝　清美）	こどもキッチンブルービー Facebook kodomokitchenbluebee/

Ouchi 食堂

活動を始めるきっかけ/活動概要

　食堂の会場でもあります飲食店でお餅つきを行った際に、60 人程親子での参加がありました。その事をきっかけに子どもと文化、町と地域、人を繋ぐ事を意識する様になりました。
　都内で勤務していた、社会福祉法人勤務時代の『子どもと食』の経験を活かして、子どもが個々に子どもらしく、そして主体となり楽しめる空間を『食』を通して提供することから、町作りのきっかけになればと活動に繋げました。

重点的に取り組んだこと/成果

　今年度は配食がメインとなりました。活動として意識していることは、食育です。
食は一つの文化でもあります。釜でご飯を炊くこと、杵と臼でお餅をつくこと、鰹節削りでかつお節を削ることその季節でしかない食材に触れること成り立ちの過程、そして道具、五感を使い体験を通して『食』に繋げることお餅もご飯も削り鰹も既存品で成り立つ便利な世の中に生きる子ども達に古き良き時代の温故知新を『食』からも感じてもらい、生きる力となる食に手を添えたいと考えながら、企画を考えています。
　成果は子ども達が大人になった時です。熊本、そして日本を『食と文化』を通して繋いでくれることです。
ルーツをなくしては生きづらくなりますけど、ルーツは戻るところがあります。
成り立ちの過程がそこにも有るのではないかと感じています。

課題/解決に向けての取り組み

・子どもの日
　北区からの食事配食のご相談を受けて、子どもの日に『自家製鯉のぼりパン』を無料配食しました。 ヤクルトや果物ジュースなど、寄贈いただいたものを添えての配食となりました。
・梅ジュース
　梅ジュースの梅から梅ジャムをつくり、梅ジャムパンを配食しました。
・コロナ禍でも野外で楽しめるカセットコンロで炊く釜めし装置をオリジナルで制作
　今後の活動に活かせるなにかを手探りに寄贈米を使わせていただき、野外キャンプをイメージされたイベントにて、釜で炊くご飯を子ども達に声かけをして、参加、活動を行いました。寄贈された食材を、地域の方々や社会福祉法人の施設の方々に配食しました。

今後の展開

町づくりを軸に置いたとき、天災、水害、疫病と想定出来ない様な事も実際に起こる中の実施です。実施に至らなくても、場所をいかして寄贈していただく食材などをお配りするツールづくり、これらの食材、食を必要とされている地域住民のお年寄りにも配食するなど、まずは場を通しても顔見知りになる事天災想定時の協力体制も先ずは『食』が浮かびます。
子ども、高齢者と抱える問題は、人口からもグラフ化されている通り、一人一人が柔軟にどの様な行動を時代に応じて変化し、考えて行動していけるのか小さな事から考え、家族以外の繋がりをもコミュニティする時代です。この場所も関わりのある方々とどのように共生していけるのか、場を通しての模索となりますが、大きな課題です。

連携団体

坪井繁栄会

問い合わせ

―	096-240-2547 （担当者　西館）	―

熊本学習支援センター　大江子ども食堂

活動を始めるきっかけ/活動概要

大江子ども食堂を開催するきっかけは、母体となる不登校・ひきこもりの学習を支援する熊本学習支援センターの子どもたちが、食育の大切さを知らず生活していることに驚かされたからです。食事の時間、栄養と取ることの大切さを知り、自分の体の管理、生活リズムをとりもどすことが大きな目的であった。

しかしながら、センターの子どもたちだけでなく、大江校区に住む子どもたちの居場所（学習支援・食育支援・遊び場支援）となれば、地域の活性化に繋がることは間違いありません。私たちは、地域に蜜着した子ども食堂を目指していきたいと考えています。

重点的に取り組んだこと/成果

今年はコロナ感染で、上手く起動しなかったのですが、生活に困った子どもたち・お一人のご家庭にとっては、子ども食堂の有難さはこの上ないものです。今年は、重点的に、４月～６月の２ヶ月間に、食材配布（約４０人分）を行いました。また、７月以降は、食事のテイクアウト（１５人分）と通常の子ども食堂を行ってきました。毎回、参加者も多くなり、現在は、約４０名近くの参加者で運営しております。

大江子ども食堂の様子

課題/解決に向けての取り組み

・新型コロナウイルス感染症が拡大している中、いかに子ども食堂を運営していくかは、各子ども食堂も悩んでいることかと思います。大江子ども食堂では、感染拡大予防を徹底し、状況に応じて、食材配布活動、テイクアウト（地域のご老人宅が多い）などを行っていきたいと考えています。

今後の展開

今後は、コロナの状況を見ながら運営に心がけていきたいと考えていますが、毎回の運営・食堂の内容・テイクアウトの内容等がわかるようなチラシを配布して行こうと思います。
困ったときこそ、「子ども食堂」の真価が問われるものと思います。

連携団体

大江校区社会福祉協議会・全国子ども食堂協議会・熊本県居場所推進協議会

問い合わせ

bansekg@yahoo.co.jp	096-288-4482 （担当者 仙波）	熊本学習支援センター　HP http://klsc.jp

NPO 法人熊本 YWCA

活動を始めるきっかけ/活動概要

実施場所である黒髪地区は、高齢化が進み子ども会も消滅するなど地域内の子どもを見守る社会システムが縮小する一方、外国人家族の増加や諸ニーズを抱えた家族の残存というアンバランスな地域である。外国人家族の中には、私費留学等で熊本に来た家族も多く、アルバイト等のかけもちにより日々の生活をまかなっており子どもへ十分な資金を回せない場合も多い。また留学生の子どもたちは、日本語会話は可能でも読み書きに苦労する子どもも多く、学校の授業で困難に直面することも多い。同時に、家や学校以外での大人とのふれあいや居場所がない子どももいる。これは国籍に限らず全ての子どもにいえる。

熊本 YWCA では、国籍を問わず、自宅では落ち着いて勉強することが難しい子どもたちや学校の勉強についていくことが難しい子どもたち、家でゆっくりご飯を食べることが出来ない全ての子どもたちが、ボランティアと一緒に宿題や日本語の勉強をしたり、みんなでご飯を食べたりすることを通じて居場所を得られるように活動している。

活動日は、毎週土曜日の午前 10 時から 12 時半までで、学習の時間と食事の時間を含む。参加費は 10 円とし、対象は小学 1 年生から 6 年生を基本としている。

重点的に取り組んだこと/成果

〇開催：年末年始を除く土曜日は毎週開催した。コロナ禍で、スタッフや子どもたちへの対応を促しながらの開催だった。コロナ禍で開催の有無については常に議論があったが、コロナ禍でより居場所をなくしたり学習格差が広がったり、食事がとれなかったりする子どもの状況を鑑み、人数制限のうえ、あえて開催した。参加者延べ数は、約 100 名。

〇食事：基本的に新鮮で安心・安全で、フェアトレードや有機無農薬などの食材を利用し手作りで食事を作っている。参加する子どものなかには、宗教上の理由からハラルフードに限られたり、食物アレルギーがあったりする。そのため食事は常にハラルを提供している。またアレルギーに関してはその都度対応するようにしている。それでも、日本での食事について親御さんが強い不信感を持っている場合など、子どもたちもおかずを食べず白いご飯のみ大人用茶碗で 5 杯も食べることもあった。そこで、まずは子どもの家族を招待して一緒に食事をしたり、ハラルフードのマークをみせたり、調理過程を見せたりするなどして、信頼関係を築くよう心がけた。また、他の子どもたちやボランティアと会話しながらの食事時間を大事にしたり、子どもが慣れ親しんだ味のおかずを用意したりと工夫した（写真）。
結果的に、最近では安心してごはんを食べる様になった。

〇コロナ感染拡大防止：次亜塩素酸水の空中散布、換気、定期的なドアノブやテーブルの消毒、マスク着用、入出時の手消毒、手洗いうがいの徹底及び子どもひとりにつき一枚の手ふきタオルを用意、大人は自分のタオルを持参し混同使用を防止するなどの基本的な対策を習慣化した。

課題/解決に向けての取り組み

ネットワーク、認知等：地域の中での認知・理解や家族の理解を促進し、子ども本人との信頼関係を構築する必要がある。そこで、地域の自治会に加入し自治会長や民生委員や小学校の教員とのコミュニケーションを図り、様々な活動を通じて家族への支援も行うなど常に働きかけを絶やさないようにしている。それでも未だ十分な理解や認知が進んでいるとは言い難く、今後も継続して働きかけを行う必要がある。

人手・資金不足：食事の作り手・勉強の見守り・遊び相手などが不足している。また、場所を維持するための資金面でも課題が大きい。人手不足については、ボランティアを呼びかけていきたい。

今後の展開

子ども食堂や学習支援は、「いつでもあり続けること」も重要だと考え、まずは丁寧にコミュニケーションをとりながら安定して活動を継続していくことを目標にしている。

その上で、ボランティアの研修を行いスキルアップを図かったり、対象を小学生だけではなく中学生そして独居高齢者などにも拡大したりするなど、いずれは活動をより充実していきたいと考えている。

連携団体

黒髪地区自治会、黒髪小学校、熊本市高齢者支援センターささえりあ浄行寺、熊本市中央区役所保健師、黒髪地区子育てネットワークの会、逢桜の里、フードバンク熊本（登録）
など

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

kumamoto.ywca@gmail.com	096-346-3419 （担当者　髙野・吉村）	熊本 YWCA Facebook https://kumamoto-ywca.jimdofree.com/

NPO 法人くまもと相談所

活動を始めるきっかけ/活動概要

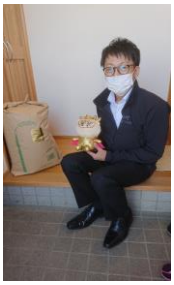
「5 年ほど前に、家庭内で課題を抱えた女の子との出会い。」

娘が「手首を切りたいぐらいムカつく」と言葉を発したため、その言葉の意味、その言葉を発した理由を聴くと「A ちゃんが言ってる。目の前でお母さんがするんだって。」と話してくれた。

その後、自宅に、娘たちと一緒に学校に行こうと、A ちゃんが迎えに来てくれていた時、あまりにも早い迎えだったため「朝ごはんは食べてきた？」と聞いたところ「食べていない。」と回答。それから、半年ぐらい、学校がある日はほぼ毎日、我が家で朝食をとって登校していた。

子どもたちを介してではあったが、さまざまな情報が入ってくる中、状況を知っていながら、何かできることはないか考えたときに「朝ごはんを一緒に食べる。」にたどり着いた。

私たちにとっては、ごく当たり前の環境ではあったが、今振り返ると A ちゃんに「こんな家庭もあるんだよ、こんな大人もいるんだよ、こんなふうに子育てしている親もいるんだよ…。」といった言葉では表現できない何かを感じてほしいという思いだったと思う。



重点的に取り組んだこと/成果

「思いやり」「だんらん」「笑い」「たわいもない会話」等など、色々な意味で「ぬくもり、あたたかさ」を意識して開催させていただいている。

また、開催のお知らせにご協力いただいた方々の写真や思いを掲載させていたきながら、たくさんの方々のご協力（支え）があって開催できていることを伝えると同時に、「だから、あなたは一人じゃないんだよ。」というメッセージを送っている。

課題/解決に向けての取り組み

出欠をとることができないため、お弁当が足りないことやあまることがある。
毎回、来てくれた子どもたち全員に、いきわたるようしたい。
また、開催日が月１回ということもあり、子どもたちが抱える課題などの発見等にまで及んでいない。

今後の展開

もうしばらくは、現在の規模で開催することを予定している。
しかし、地域に公の「子ども食堂」等がオープンしたときには、責任をもって取り組める範囲で、皆様と一緒に開催回数を増やしたい。

連携団体

自治会、小学校等

問い合わせ

ymgc20151107@khf.biglobe.ne.jp	080-2784-3661 （担当者　山口）	―

子ども食堂ひまわり

活動を始めるきっかけ/活動概要

昔から「独りでご飯を食べる。ご飯が毎回カップ麺、虐待…」などのTVや話しを聞き、子どもの居場所を作れたらなと思っていました。

私自身シングルマザーであらゆる面で苦労を感じます。そんなママたち子どもたちの為に少しでも役にたちたいと思い子ども食堂を始めることにしました。

重点的に取り組んだこと/成果

うちの食堂では貧窮・ひとり親だけではなく、障がい児の家族や高齢の方、子どもが多い世帯の方にも利用頂けるようにしています。障がい児と子どもたちの交流、高齢の単独世帯の方と若い世代との交流等を通じて情報交換や孤独感が少しでもなくなればと考えています。高齢の方に関してボランティアの方にも参加して頂き認知症予防、運動不足解消にも繋がればいいなと考えます。

成果としては、障がい児と子どもたちに友情ができたり、障がい児の親御さん同士で仲良くなられたり、高齢の方と子どもたちの会話も見受けられますし、高齢の方が若いママたちに料理や昔の知恵を教えている姿も見受けられます。子どもたちも友達が増え、好き嫌いしていた子も好き嫌いなく食べてくれるようになった等の声も聞かれます。

課題/解決に向けての取り組み

　まだまだ子ども食堂は貧窮の方しか利用できない等イメージが強いようです。地域の方でも警戒されている方もいらっしゃいます。参加する一歩が踏み出せないとゆう方もいらっしゃいます。認知してもらうにあたって学校や PTA 等の協力も必要ですが、なかなか受け入れてもらえません。子ども食堂の認知。もっともっと利用者が増えればいいなと考えます。
　解決に向けて、学校や地域の方がより理解し協力していただけるよう声かけをしていきます。

今後の展開

今はコロナで新しいことをする等動ける状況ではありませんが、落ち着いたら勉強支援や、習字や体操等もいれていけたらなと考えます。

連携団体

子どもから地域へ拡がれネットワーク
一般社団法人熊本県子ども食堂ネットワーク
フードバンク熊本
その他、子ども食堂の知り合いに寄付のおすそ分けをいただいたりしています。

問い合わせ

―	090-9723-0054 （担当者 西田 麻実）	―

熊本市西区中島校区こども食堂まんまる

活動を始めるきっかけ/活動概要

2020 年 8 月に組織を以下の目的で立ち上げました。当初 8 月開始予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により 10 月に初回を開催しました。

１）こどもの居場所づくり（生活に困難を抱える支援を含む）
２）こどもと高齢者の孤食防止
３）地域の交流の機会を増やし互いの絆を強化していくことが主な目的。
４）その過程において地域全体で子育て、人育てを可能にしていくこと、子どもたちの自己肯定力や社会性を高めること、住民の自助力、共助力を高めることをねらいとしている。

「まんまる」は 1 月に 1 回の開催ではありますが、地域の方々と協力し合いながらコツコツと、末永く活動を継続させていきたいと思っています。

重点的に取り組んだこと/成果

１）まずは感染防止対策をとりながら開催を実現できたことが成果。地域での世代間や学びの機会の創出までは至らなかったが、感染者や食中毒等、問題が起きずに安全に開催できたことが成果。
２）食材の寄付をしていただける農家さん、企業さんに協力依頼をお願いした。
毎回、多くの新鮮でおいしい食材の寄付を頂いた。
３）校区に認知されてきた実感を得た。
これまで３回実施したが、回を重ねるごとに募集を楽しみにする子ども達の声が聞こえてきた。
また、直近では募集開始直後に定員近くまで予約が埋まるという状況であった。
４）スタッフの動き方の効率化を図るため、開催日の前後にミーティングをし、課題を抽出し改善策を講じた。初回に比べ、２回目、３回目のスタッフの心身の負担は大変軽くなったことを共有している。
５）頂いた食材をどんなふうに活用しておいしく健康的に食してもらうか彩りも含め工夫をしながらメニューを考えた。子ども達も保護者も高齢者もおいしくてバランスのよい食事に喜んでいただいた。

課題/解決に向けての取り組み

喫緊の課題は、感染防止をしながらの活動継続です。私たちの活動拠点はコミュニティセンターですので緊急事態宣言の元では活動できず、１月から自粛することにしました。一度は別の公民館でお弁当を作って、コミュニティセンターへ運んで参加者へ配ることもしましたが、様々課題が出てその形では難しいと感じました。今後も工夫をしつつ状況を判断しながら感染防止に努め食堂を継続していきたいと思います。

食堂の課題の一つ、「食材」に関しては、食堂開設前に、地域の農家さんをはじめ、知り合いの精肉・鮮魚を取り扱う企業様に食堂の目的を伝え、食材の寄付支援のお願いを直接お願いしに行きました。そのほか、フードバンク、他企業様や個人様など、ありがたいことに、おいしく安心できる食材を本当に多く頂きながら、食堂を運営することができています。それぞれの皆様の善意に心から感謝です。せめてものお返しとして食材寄付を頂いた方へは毎回お礼と開催報告を届けています。

また、子ども食堂のイメージとして、困窮家庭の方しか利用ができないと思っている方も少なくありません。実際には子ども食堂は多様化しています。私たちの目的としては、上にも書いたように世代間の交流や地域の絆の強化など多くの効果を期待できると思っています。

それらの目的や効果を知っていただくためには、学校や地域、PTA などの協力も必要ですが幸いなことに校区の多くの方々が大変協力的でとても運営しやすい状況です。今後も食堂に来られる方々が楽しいと思ってもらえるように運営していくことで、さらに「まんまる」の認知度が深まり、必要な人、地域のために役に立っていければと思います。

今後の展開

令和３年１月から感染防止のため活動停止するが、再開後もしばらくはコロナとの共存であるなかで、引き続き感染防止の徹底を図りながら活動を継続していく。

連携団体

熊本県こども食堂ネットワーク、フードバンク熊本、有限会社矢野畜産（肉の提供）、
有限会社マルイシ青果（魚の提供）

問い合わせ

—	—	中島校区まんまるこども食堂 Facebook https://m.facebook.com/manmarunakasima

NPO 法人逢桜の里

活動を始めるきっかけ/活動概要

【活動概要】

（1）子どもたちが安心して過ごせる居場所の提供

（2）子どもたちに食事を提供し生活力もつける学ぶ活動の実施

（3）子どもの未来を応援するための支援する方の人材育成

（4）子どもの居場所づくりを協働することによる地域活性化

（5）子ども達に生きる力をつけ「ホンモノを知る」活動

★地域の様々な仕事をしている大人を呼び、生き様や技能を体験させ夢を持たせるキャリア教育。

（6）黒髪の立地柄留学生等が多く在住のため交流の機会が多い多文化教育。

重点的に取り組んだこと/成果

【成果】

(1)コロナレベルに応じてコロナ禍でできる環境を整え、従来より人数を制限して活動を続けた

(2)子ども自身が作ることができるメニューを子どもと共に作り学んでもらった

(3)sakura リボン講習※はコロナ禍で開催を中止している

(4)活動地域のうち 3 か所で地域と連携した活動が定着し協力体制が拡がっている

(5)5 か所の活動の中でも、特に九州電力(株)様のご支援で開催している COCO-Dinig では、毎月様々な「ホンモノを知る」体験を開催できた

(6)シングルペアレント支援企画①マスク作成買取②乾燥野菜つくりの雇用

※里づくりにおいて、社会活動の取り組み方や心がけを学び、社会課題を解決したい人が「一方的な善意の押し付け」や「意図しないハラスメント等の被害」を与えないようにする基準を作る活動

課題/解決に向けての取り組み

【課題】
コロナ禍で活動の継続性
【解決に向けての取り組み】
・三密を避け、マスク着用し、手洗いうがい
・参加者数の制限
・開催時間の短縮
・共食をせず持ち帰りにする
・開催場所の選定

今後の展開

・解決に向けての取り組みを丁寧に続ける。
・ネットを取り入れた活動の展開
・子どもの居場所の新しい形の構築

連携団体

<企業>
九州電力(株)熊本支店、JA 熊本中央会、JA 婦人部、シェタニ、吉田養鶏場、農家宮本、五喜
<民間団体>
黒髪校区自治協議会、向山校区民生委員、若葉校区、熊本市スクールソーシャルワーカー、食育体験！たつだ・こどもカフェ、たくとう地域食堂、楡木子ども食堂なごみ、ほがらか食堂、みんなの食堂、YWCA 熊本、一新校区自治協議会、
<学校>
黒髪小学校、若葉小学校、向山小学校、砂取小学校、桜山中学、ルーテル学院、必由館高校、中央高校、熊本大学、学園大大学、崇城大学

問い合わせ

airanosato@gmail.com	０９６－３４４－１１１２ （担当者　柿木　恵美）	逢桜の里（あいらのさと）Facebook http://airanosato.jp/

不登校・ひきこもり支援ダッシュスクール富合

活動を始めるきっかけ/活動概要

不登校児や未就学児童の食育や様々な体験が必要と感じた為、この活動を始めました。

重点的に取り組んだこと/成果

・食育活動
・性教育
・不登校児支援
・福祉との連携

課題/解決に向けての取り組み

コロナの影響があり、児童の参加及びスタッフの参加が減り活動を中止しています。

今後の展開

検討中

連携団体

一般社団法人オルタナ
NPO 法人せいしとらんし熊本

問い合わせ

—	090-5083-5444 （担当者　中村）	ダッシュスクール富合